

目次

《分析数値を見るに当たっての留意点》	1
1 全体概要(19、20年度の動向)	2
2 平成20年度農業近代化資金の投資内容《無利子、有利子資金別》	10
3 平成20年度農業経営基盤強化資金の投資内容《無利子、有利子資金別》	14
4 平成20年度経営部門別資金使途《無利子、有利子資金別》	
(1) 農業近代化資金	18
(2) 農業経営基盤強化資金(スーパーL資金)	19
(参考) 建物・施設の取得及び農機具の取得の件数内訳	21
(資料) 本分析における資金使途の例示	25

《分析数値を見るに当たっての留意点》

分析数値は、当協会に提出された経営改善資金計画書に記載されたもので、かつ下記条件であるため利子助成者全体のデータではない。

- ①経営改善資金計画書に記載のない場合は不明としたため、項目ごとの合計値は異なる(特に19年度に導入されたクイック融資の簡略化様式では記載されている項目が少ない)。
- ②経営改善資金計画書の入力方法は、年度ごとに若干差異がある。
 - ・18年度：農業近代化資金は借入金500万円以上で、かつ主要な経営部門のみを入力
 - ・19年度：年度前半は、複数回借入者はもっとも大きな借入のみを入力(同一人物が3回借り入れた場合でも1回の借入件数としたが、重複借入者は224人であった。)
 - ・20年度：借入件数すべて入力(同一人物が3回借り入れた場合は3回の借入件数になる)
- ③同一の借入時に複数の資金使途(投資目的)がある場合は、最も大きな借入金の投資目的を採用した。例えば、1回の借入で土地改良、農機具の取得等複数の投資目的を達成した場合で最も大きな投資目的が農機具の取得であれば、第1目的の農機具の取得を資金使途とした。
- ④農業近代化資金は無利子資金と有利子資金の区別をしたが、スーパーL資金は経営改善資金計画書からの当協会入力データでは無利子資金と有利子資金の区別が容易でないため、無利子化措置の要件である500万円超と500万円以下に区分して分析した。20年度に省エネルギー・低コスト経営支援緊急対策利子助成金が導入されたが、スーパーL資金によるものは同様である。
- ⑤資金使途別分析で素畜の購入は家畜の購入に区分しているが、経営改善資金計画書では『4(2)エ：運転資金などの使い道と資金調達』に記載されるため、18年度のスーパーL資金については長期運転資金に計上したものがあり、長期運転資金と家畜の購入を合算して見る必要である。
- ⑥用語としては、19年度から導入されている「無利子化措置」による資金は『無利子化資金』、20年度から導入された「省エネルギー・低コスト経営支援緊急対策利子助成金」による資金は『省エネ資金』、これを合わせたものを『無利子資金』とし、「無利子資金」以外の資金を『有利子資金』とした。

1 全体概要

19年度に無利子化措置が導入されたが、導入以前と異なる特徴点を中心に記述する。

利子助成交付決定件数については、19年度は、18年度に比べスーパーL資金142.5%増、農業近代化資金（K）49.2%増、全体で89.4%増と倍増し、20年度もその勢いは持続し、スーパーL資金13.6%増、農業近代化資金4.0%減、全体で5.7%増と資金需要は引き続き旺盛で、農家の経営改善意欲に応えることができた。

無利子資金の占める割合は、19年度はスーパーL資金86%、農業近代化資金57%、全体で73%とスーパーL資金での割合が高く、20年度は省エネ資金が導入されたこともありスーパーL資金85%、農業近代化資金65%、全体で77%と無利子資金の割合が更に高くなり、農家の経費負担減に貢献した。

利子助成交付決定件数

(単位:件数、%)

	H18	H19			対前 年増	H20					対前 年増
		無利子化	有利子	合計		無利子化	省エネ	小計	有利子	合計	
L	2343	4912	770	5682	142.5	4346	1138	5484	968	6452	13.6
	—	86	14	100		67	18	(85)	15	100	—
K	3089	2642	1966	4608	49.2	2771	103	2874	1550	4424	▲4.0
	—	57	43	100		63	2	(65)	35	100	—
合計	5432	7554	2736	10290	89.4	7117	1241	8358	2518	10876	5.7
	—	73	27	100		65	11	(77)	23	100	—

農業近代化資金の借入回数については、4424件中、1回の借入回数者が91%に当たる4024件、2回以上が400件であるが、借入者数で見ると、193人が2回以上借りており、2回が182人、3回が9人、4回と5回が1人である。5回は新規就農者である。

500万円以下の件数1605件中、217件が2回以上であるが、このうち84件が無利子資金の対象で2回以上の借入で500万円超にしたものである（2-①参照）。

農業近代化資金全体での借入回数の重複

借入回数	1	2	3	4	5	合計
借入回数別件数 ①	4024	← 400 →				4424
借入回数別件数内訳	4024	364	27	4	5	4424
借入回数別借入者数 ②	4024	← 193 →				4217
借入回数別借入者数内訳	4024	182	9	1	1	4217
①のうち 500万円以下の件数	1388	← 217 →				1605
②のうち 500万円以下の借入者数	1388	← 34 →				1422

① 借入額別割合

ア 個人経営

無利子化措置導入で500万円超の投資が可能となった農家が多く、「500万円超～1000万円」の借入額が最も多くなったのが特徴である（スーパーL資金を参照）。

- ・農業近代化資金：（18年度は借入額500万円以上のもののデータであるため統計上限界があるので借入額別件数割合についてはすべて不明とした。）

19年度は500万円以下の割合が47%であったが、20年度は40%と低下したものの、小口の資金需要は根強いものがある。小口需要の多くが、小型農業機械の更新需要と、ビニールハウスである。特に19年度は原油価格の高騰で簡易なビニールハウス需要の高まりに対応したと思われる。

- ・スーパーL資金：18年度は500万円以下の割合が29%を占めていたが、19、20年度は最も割合の高い借入額が「500万円超～1000万円」となったが、1000万円以下でみると18年度56%、20年度59%でほぼ同じ割合になる。1000万円超での構成割合には大きな変化は見られない。

イ 法人経営

個人経営と同様な傾向を示し、スーパーL資金の500万円以下の割合が低下し、「500万円超～1000万円」が大きく増加した。なお、小口需要は500万円以下で対応できた農地の取得と運転資金が多い。

19、20年度ともに1億円超の大型投資が増えたのも無利子化措置導入の特徴である。

第1-1表 総括表：借入額別件数割合

借入額別 件数割合	個人経営						法人経営					
	農業近代化資金			スーパーL資金			農業近代化資金			スーパーL資金		
	H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20
件数	852	4008	3794	1221	3159	3353	140	530	630	342	902	979
(割合)	—	100	100	100	100	100	—	100	100	100	100	100
500万円以下	—	47	40	29	16	15	—	24	16	11	4	5
500超～1千以下	—	37	48	27	43	44	—	41	48	12	21	20
1千超～2千以下	—	15	13	25	24	24	—	20	24	19	19	20
2千超～3千以下	—	0		8	8	8	—	7	6	14	13	12
3千超～4千以下	—			4	4	4	—	8	7	10	7	7
4千超～5千以下	—			3	3	2	—			5	7	9
5千超～1億以下	—			3	3	3	—			16	13	13
1億円超	—			1	0	1	—			12	17	16

② 資金使途別割合

無利子化措置導入により全ての資金使途（投資目的）で実質的に増加したが、特に大きく増加したのはトラクター、コンバイン、収穫用農業機械で、これら農機具取得の件数割合が大きく増加した分、割合的には他の資金使途は低下した。無利子化措置導入を機に、老朽化した農業機械を更新した農家が多かったと見られる。

1件当たり平均借入額（以下、平均借入額）については、農業近代化資金では個人経営 595 万円、法人経営 1119 万円、合計平均 670 万円に対し、スーパーL資金では個人経営 1453 万円、法人経営 6373 万円、合計平均 2565 万円で、農業近代化資金とスーパーL資金では4倍程度の差がある。

ア 個人経営

- ・農業近代化資金：借入件数では、18年度に比べ建物・施設の取得以上に農機具の取得が大きく増加し、20年度の農機具の取得の割合は49%に達し、建物・施設の取得35%と逆転した。借入額割合でも農機具の取得42.5%が建物・施設の取得41.4%をわずかに上回った。
- ・スーパーL資金：借入件数ではこれまでも農地取得が半数以上を占めていたが、18年度に比べ農機具の取得が17%に増加したものの、農地取得が48%と資金使途で最も大きいことには変わりがない。しかし、農機具の取得の平均借入額が小さいため、借入額割合では農地取得40.4%、建物・施設の取得36.5%、農機具の取得9.4%となり、農地取得、建物・施設の取得の割合は低下しているがなお大きいことには変わりがない。農地取得による規模拡大と農業機械の導入による作業の効率化が進んでいる。

イ 法人経営

- ・農業近代化資金：借入件数では、個人経営同様、農機具の取得が大きく増加した。18年度は農機具の取得35%、建物・施設の取得50%であったのに対し、20年度は農機具の取得48%、建物・施設の取得35%で、個人経営同様逆転した。しかし、借入額割合では建物・施設の取得43.5%、農機具の取得34.9%となり、建物・施設の取得が最も大きい。
- ・スーパーL資金：個人経営との違いは農地取得の割合が低いのが特徴である。個人は農地を資産としても取得するが、法人は資金面で余裕がないところが多く、また経済性を考慮し、賃借によるところが多い。経営スタイルの違いが見られる。

借入件数では、18年度に比べると農機具の取得、農地取得の割合が増加し、一方、建物・施設の取得が減少し、20年度の建物・施設の取得が44%、農地取得16%、農機具の取得15%となった。『その他』は飼料費が多い。

平均借入額については建物・施設の取得9619万円が大きいいため、借入額割合では建物・施設の取得66.3%、農機具の取得7.0%、農地取得6.0%で、建物・施設の取得が3分の2を占める。

第1-2表 総括表：資金使途別件数割合

資金使途別 件数割合	個人経営						法人経営					
	農業近代化資金			スーパーL資金			農業近代化資金			スーパーL資金		
	H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20
件数	852	3960	3786	1218	3158	3368	139	521	627	342	901	977
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
土地改良	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
建物・施設の取得	52	33	35	25	25	22	50	32	35	54	45	44
農機具の取得	32	48	49	8	15	17	35	55	48	10	15	15
運搬用機具の取得	1	3	3	0	0	0	2	1	1	0	0	0
果樹等の植栽育成	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
家畜の購入	10	10	7	3	6	4	8	6	8	2	12	7
長期運転資金	2	2	3	7	5	2	1	1	2	19	10	4
農地取得	—	—	—	55	44	48	—	—	—	11	13	16
その他	4	2	2	2	4	7	4	5	6	5	4	12

(注) 18年度は家畜の購入が長期運転資金に入っていたため正確な比較はできないが19年度に増加し、20年度は減少したと見られる。

第1-3表 平成20年度資金使途別件数割合、平均借入額（万円）、借入額割合

資金使途別 件数割合 平均借入額 借入額割合	個人経営						法人経営					
	農業近代化資金			スーパーL資金			農業近代化資金			スーパーL資金		
	件数	平均	借入	件数	平均	借入	件数	平均	借入	件数	平均	借入
	割合	借入額	割合	割合	借入額	割合	割合	借入額	割合	割合	借入額	割合
全体	100	595	100	100	1453	100	100	1119	100	100	6373	100
土地改良	1	420	0.5	0	725	0.2	0	0	0	1	2680	0.2
建物・施設の取得	35	700	41.4	22	2472	36.5	35	1401	43.5	44	9619	66.3
農機具の取得	49	519	42.5	17	802	9.4	48	812	34.9	15	2979	7.0
運搬用機具の取得	3	243	1.3	0	557	0.1	1	925	1.2	0	1530	0.0
果樹等の植栽育成	0	0	0	0	800	0.0	0	0	0	0	880	0.0
家畜の購入	7	782	9.5	4	2396	6.6	8	1466	10.2	7	7871	9.2
長期運転資金	3	630	3.0	2	1168	1.9	2	1403	2.4	4	3862	2.5
農地取得	—	0	0	48	1234	40.4	—	0	0	16	2385	6.0
その他	2	504	1.7	7	1026	4.7	6	1388	6.9	12	4326	8.4
不明		—	0.2	0	—	0.1		—	0.9		—	0.3

③ 経営部門別割合

これまで農業近代化資金は稲作、施設野菜、施設花きを中心とした耕種部門で多く利用され、スーパーL資金は酪農、養豚、肉用牛肥育、採卵鶏の畜産部門で多く利用されてきたが、無利子化措置導入により、農機具の購入増から農業近代化資金の稲作の件数割合が大きく増加し、その分酪農の件数割合が低下したのが特徴である。また、施設野菜は農業近代化資金で増加し、スーパーL資金で減少しているが、投資内容が小規模の温室等に移行した結果と思われる。

平均借入額については、農業近代化資金では経営部門間ではそれほど大きな差はない。スーパーL資金では融資限度額が大きいこともあるが経営部門間で大きな差があり、特に、法人経営の採卵鶏、ブロイラー等の畜舎、肉用牛肥育の家畜購入額が大きい。

ア 個人経営

- ・農業近代化資金：18年度に比較して件数割合が増加したのは稲作、露地野菜、施設野菜、低下したのは施設花き、酪農で、20年度は施設野菜22%、稲作21%、露地野菜10%、酪農8%となった。農業機械の更新と温室・ハウスの増加を背景に稲作、施設野菜の割合が増加した分、酪農と施設花きの割合が低下したことになる。原油価格の高騰や穀物価格の高騰で、計画生産中の酪農と施設花き農家の建物・施設の取得への投資が伸び悩んだと見られる。平均借入額は経営部門間に大きな差がないため、借入額割合では稲作21.1%、施設野菜19.9%、露地野菜8.9%と件数割合と相似している。
- ・スーパーL資金：18年度に比較して件数割合が大きく増加したのは畑作で、露地野菜、施設花きも増加し、大きく低下したのは酪農、施設野菜であり、20年度は稲作31%、酪農17%となり、酪農の占める割合が若干低下したものの、この2つで依然半数を占めていることには変わりがない。無利子化措置導入で農地取得が増加した畑作の割合が増加していることと、きのこ施設が増加したのが特徴である。

平均借入額については農業近代化資金よりは差があるため、借入額割合では稲作25.1%、酪農23.9%となるなど件数割合より畜産の割合が大きい。

イ 法人経営

- ・農業近代化資金：18年度に比べ件数割合が大きく増加したのは稲作で、大きく低下したのは酪農、養豚であり、20年度は稲作37%、酪農9%、養豚6%となった。なお、その他は加工販売事業や作業受託等か経営部門の不明なものである。借入額割合では稲作26.5%と最も大きいものの、肉用牛肥育、養豚、ブロイラー、きのこなどの借入額割合が大きくなった。
- ・スーパーL資金：18年度に比べ件数割合が低下したのは施設野菜、酪農、採卵鶏で、その分きのこ等ほとんどの経営部門で増加し、20年度は稲作19%、養豚15%、酪農11%、肉用牛肥育8%、採卵鶏5%となった。酪農、肉用牛肥育、採卵鶏は低下したものの、依然これらが大きな割合を占めていることには変わりがない。

平均借入額に大きな差があるため、借入額割合では稲作5.5%と耕種はかなり小さくなり、肉用牛肥育、養豚、採卵鶏、きのこなどが大きな割合を占める。

第1-4表 総括表：経営部門別件数割合

経営部門別 件数割合	個人経営						法人経営					
	農業近代化資金			スーパーL資金			農業近代化資金			スーパーL資金		
	H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20
件数	852	3912	3764	1221	3111	3310	140	488	592	342	881	893
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
稲作	17	19	21	31	29	31	23	38	37	18	21	19
畑作	7	6	5	3	6	9	9	8	6	3	3	4
露地野菜	7	10	10	11	11	12	6	6	8	7	6	7
施設野菜	18	21	22	7	6	5	5	5	5	8	6	4
露地果樹	4	4	5	4	4	4	1	2	2	2	1	2
施設花き	12	6	7	4	6	5	8	5	6	4	4	4
工芸作物	7	8	7	7	5	4	6	5	3	2	3	3
酪農	14	8	8	20	18	17	16	9	9	16	10	11
肉用牛肥育	8	8	5	7	7	5	6	6	6	13	12	8
肉用牛繁殖	5	5	6	2	3	3	1	0	1	0	1	1
養豚	1	1	1	2	2	2	13	2	6	14	12	15
採卵鶏	0	0	0	0	0	0	4	3	2	10	8	5
ブロイラー	—	0	0	1	0	0	—	1	1	2	3	3
きのこ	—	1	1	0	1	1	—	4	4	0	2	4
その他	—	2	3	0	2	2	—	7	4	0	7	8

(注) 18年度の農業近代化資金はブロイラー、きのこ、その他は入力していないためデータなし

第1-5表 平成20年度経営部門別件数割合、平均借入額（万円）、借入額割合

経営部門別 件数割合 平均借入額 借入額割合	個人経営						法人経営					
	農業近代化資金			スーパーL資金			農業近代化資金			スーパーL資金		
	件数	平均	借入	件数	平均	借入	件数	平均	借入	件数	平均	借入
	割合	借入額	割合	割合	借入額	割合	割合	借入額	割合	割合	借入額	割合
全体	100	595	100	100	1453	100	100	1119	100	100	6373	100
稲作	21	607	21.1	31	1209	25.1	37	853	26.5	19	1985	5.5
畑作	5	640	5.2	9	1239	8.0	6	943	5.1	4	4403	2.8
露地野菜	10	519	8.9	12	1032	8.3	8	979	6.5	7	2903	2.8
施設野菜	22	540	19.9	5	1259	4.4	5	1625	7.4	4	3176	2.0
露地果樹	5	436	3.6	4	893	2.5	2	595	0.9	2	1633	0.5
施設花き	7	568	6.5	5	1356	4.5	6	830	4.0	4	2053	1.1
工芸作物	7	536	6.6	4	1183	3.2	3	1098	3.0	3	5574	2.2
酪農	8	674	8.5	17	2149	23.9	9	1169	9.1	11	6097	9.9
肉用牛肥育	5	911	6.9	5	2588	9.2	6	1715	9.0	8	10142	11.5
肉用牛繁殖	6	687	6.7	3	1459	3.0	1	1742	1.5	1	2775	0.5
養豚	1	966	1.2	2	2745	3.2	6	1695	7.9	15	7500	16.5
採卵鶏	0	714	0.3	0	2074	0.5	2	1680	2.1	5	13153	10.1
ブロイラー	0	789	0.4	0	1607	0.5	1	2660	2.3	3	11490	4.2
きのこ	1	862	1.1	1	1089	0.4	4	1798	5.6	4	15215	9.5
その他	3	533	2.4	2	1238	1.5	4	1077	3.7	8	6025	7.0

④ 農業粗収入別割合

ア 個人経営

農業粗収入（経営規模）と借入資金（農業近代化資金かスーパーL資金か）との関係はそれほど明確ではなく、農業近代化資金利用者でも大型農家が多い。しかし、個人経営、法人経営ともに2億円以上の大規模経営（畜産が多い）では、借入限度額の差からスーパーL資金の割合が高くなる。

- ・農業近代化資金：18年度に比べ、19、20年度は農業粗収入1千万円未満農家の割合が増加した。無利子化措置導入に伴い小規模の農家も資金を利用しやすくなり、投資意欲が強くなったものとみられる。
- ・スーパーL資金：小規模層の増加は農業近代化資金ほど認められず、無利子化措置導入による規模面での変化はあまり見られない。農業近代化資金に比べ5千万円以上の大型農家が多く、農業粗収入が大きくなるほど、融資限度額が大きく大型投資に対応できるスーパーL資金の割合が高くなる傾向は見られる。

イ 法人経営

両資金ともに、個人経営と比べ大規模農家の割合が高い。

法人経営でも個人経営同様、農業近代化資金は小規模農家が増加し、スーパーL資金も中小規模の農家層の増加が見られ、各層で無利子化措置の恩恵を受けたことを示している。

- ・農業近代化資金：個人経営同様、農業粗収入 1 千万円未満の割合が増加し 19 年度には 12%、20 年度も 6% もおり、無利子化措置で小規模の法人も投資意欲が出たと見られる。しかし、個人経営に比べ規模は大きく、5 千万円以上層が 53% と半数に達している。
- ・スーパーL資金：農業粗収入 5 千万円以上は 18 年度 76%、19 年度 77%、20 年度 73% とかなり高く、2 億円以上が 34% もおり、農業粗収入が大きくなるほど大型投資に対応できるスーパーL資金の割合が高くなることを示している。

第 1 - 6 表 総括表：農業粗収入別件数割合

農業粗収入別 件数割合	個人経営						法人経営					
	農業近代化資金			スーパーL資金			農業近代化資金			スーパーL資金		
	H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20	H18	H19	H20
件数	852	3902	3736	1221	3111	3315	140	445	547	342	816	882
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
1千万円未満	17	23	23	15	13	14	4	12	6	4	3	4
1千～2千未満	28	31	31	26	25	23	4	7	10	5	4	4
2千～3千未満	19	17	20	17	20	21	10	12	12	6	4	7
3千～4千未満	13	10	10	13	14	15	10	13	10	6	5	7
4千～5千未満	9	6	6	9	9	9	12	7	10	4	6	5
5千～1億円未満	11	9	8	12	14	13	28	27	26	22	21	19
1億～2億円未満	3	3	2	5	4	4	19	14	16	20	19	20
2億円以上	1	1	0	2	2	2	14	9	11	34	37	34

2 農業近代化資金の投資内容（20年度）

①借入額別動向

件数割合では、全体合計で「500万円超～1千万円以下」48%が最も多く、500万円以下36%である。無利子資金（無利子化資金＋省エネ資金）は個人経営61%、法人経営86%で法人の無利子資金割合が高い（全体では65%）。省エネ資金と無利子化資金の差異はあまりない。借入金500万円超では有利子資金が1%程度（限度額を超える場合も含む）で、農家の意向には無利子化資金枠で対応できたと推定される。

個人経営では借入金500万円以下の有利子資金が多く、無利子資金割合は61%である。無利子資金では「500万円超～1千万円以下」の割合が高く、無利子化措置で投資を拡大したと見られる。

法人経営では大型投資が多くなる。有利子資金で500万円超が9%を占めるのは限度額を超える場合が含まれるためとみられる。

第2-1表 農業近代化資金：H20借入額別件数割合（無利子化／省エネ／有利子）

借入額別 件数割合	個人経営			法人経営			全体		
	無利子化	省エネ	有利子	無利子化	省エネ	有利子	無利子	有利子	全体合計
件数	2253	77	1464	518	26	86	2874	1550	4424
(割合)	59	2	39	82	4	14	65	35	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
5百万円以下	3	1	99	3	12	91	3	98	36
5百万円超～1千	77	79	1	55	42	5	73	1	48
1千万円超～2千	20	19	0	28	19	1	22	0	14
2千万円超～3千				6	15	2	1	0	1
3千万円超～4千				7	12	1	1	0	1

（注）無利子資金を借りた者で500万円以下は2回以上借入し、無利子化措置（500万円超）を適用したケースである（全体概要の「借入回数の重複」を参照）。

②資金使途別動向

全体合計では、件数割合で農機具の取得49%、建物・施設の取得35%であるが、平均借入額が建物・施設の購入799万円、農機具の取得560万円であるため、借入額割合では建物・施設の購入41.9%が農機具の取得40.7%を上回る。

個人経営の平均借入額については、無利子化資金は各資金使途間で比較的差があるが、有利子資金は各資金使途ともに200～300万円と小型化し、差もあまりない。このため、借入額割合では無利子化資金は建物・施設の購入44.3%が農機具の取得39.9%を上回るが、有利子資金では農機具の取得55.3%と半分以上を占め、小型の農業機械の投資が多い。

省エネ資金は長期運転資金（レンタルハウスリース料の一括払い）が多いのが特徴である。

法人経営の平均借入額は、無利子化資金の建物・施設の購入1508万円や省エネ資金の長期運転資金（レンタルハウスリース料の一括払い）3440万円と規模が大きくなり、長期的に大型投資

をしているのが特徴である。借入額割合では無利子化資金は建物・施設の購入 45.7%が農機具の取得 33.2%を上回る。有利子資金では個人経営同様、農機具の取得が半分程度を占める。

第 2 - 2 表 農業近代化資金：H20資金使途別件数割合（無利子化資金／省エネ／有利子）

資金使途別 件数割合	個人経営			法人経営			全体		
	無利子化	省エネ	有利子	無利子化	省エネ	有利子	無利子	有利子	全体合計
件数	2249	77	1460	515	26	86	2867	1546	4413
(割合)	59	2	39	82	4	14	65	35	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
土地改良	0	0	1	0	0	0	0	1	1
建物・施設取得	39	27	30	37	15	28	38	29	35
農機具の取得	46	49	53	46	58	62	46	53	49
運搬用機具取得	1	0	7	2	0	1	1	6	3
果樹等植栽育成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	9	9	4	9	15	1	9	4	7
長期運転資金	3	14	3	2	4	2	3	3	3
農地取得	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	2	0	3	5	8	6	2	3	2

第 2 - 3 表 農業近代化資金：H20資金使途別平均借入額（万円）と借入額割合

資金使途別 平均借入額 借入額割合	個人経営						法人経営						全体	
	無利子化		省エネ		有利子		無利子化		省エネ		有利子		平均	割合
	平均	割合	平均	割合	平均	割合	平均	割合	平均	割合	平均	割合		
全体	815	100	766	100	249	100	1218	100	1437	100	429	100	670	100
土地改良	890	0.4	0	0.0	232	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	420	0.4
建物施設取得	921	44.3	884	31.5	241	28.6	1508	45.7	1381	14.8	556	36.2	799	41.9
農機具の取得	704	39.9	684	44.1	261	55.3	891	33.2	1232	49.4	346	49.8	560	40.7
運搬機具取得	657	0.8	0	0.0	148	3.9	1004	1.3	0	0.0	290	0.8	291	1.2
果樹植栽育成	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
家畜の購入	932	10.4	781	9.3	303	5.3	1492	10.4	1507	16.1	179	0.5	886	9.7
長期運転資金	872	2.7	812	15.1	215	2.2	1393	2.0	3440	9.2	431	2.3	709	2.8
農地取得	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	736	1.4	0	0.0	285	3.0	1458	6.5	1950	10.4	769	10.4	788	2.9

③経営部門別動向

全体合計では、件数割合は稲作 23%、施設野菜 20%、露地野菜 10%であるが、平均借入額がブロイラー1413万円、養豚 1354万円など畜産が大きいため、借入額割合では稲作 22.4%、施設野菜 17.0%、酪農 8.6%、露地野菜 8.3%である。

無利子資金は農業機械の投資が大きい稲作 26%、ハウス需要の高い施設野菜 16%、減少したと

はいえ酪農 9%が多い。有利子資金は小型のビニールハウス需要の高い施設野菜 27%、露地野菜 13%の割合が高くなる。

個人経営では、平均借入額は経営部門間に差がなく、借入額割合では稲作 21.1%、施設野菜 19.1%で、耕種の割合が高い。省エネ資金は更に耕種の割合（稲作の農業機械と施設野菜の温室ハウス）が高くなる。

法人経営では、無利子化資金で最も大きいのはブロイラー3160万円、省エネ資金で「きのこ」の3600万円、露地野菜の3440万円と融資限度額を十分に利用したところが見られる。借入額割合でも稲作がもっとも大きいことには変わりがないが、畜産の割合が高くなる。また、省エネ資金では「きのこ」の割合が高い。

第2-4表 農業近代化資金：H20経営部門別件数割合（無利子化資金／省エネ／有利子）

経営部門別 件数割合	個人経営			法人経営			全体		
	無利子化	省エネ	有利子	無利子化	省エネ	有利子	無利子	有利子	全体合計
件数	2242	77	1445	492	22	78	2833	1523	4356
(割合)	60	2	38	83	4	13	65	35	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
稲作	23	29	16	36	50	38	26	18	23
畑作	7	6	2	7	0	5	7	2	5
露地野菜	9	12	13	7	5	14	8	13	10
施設野菜	18	19	28	5	9	4	16	27	20
露地果樹	4	4	7	2	0	4	3	7	4
施設花き	7	3	7	6	0	5	6	7	7
工芸作物	6	3	10	3	0	6	5	10	7
酪農	8	14	6	10	23	4	9	6	8
肉用牛肥育	6	4	2	7	5	3	6	2	5
肉用牛繁殖	7	3	4	1	0	0	6	4	5
養豚	1	1	0	5	0	8	2	1	1
採卵鶏	0	0	0	1	0	4	0	0	0
ブロイラー	0	0	0	1	0	1	0	0	0
きのこ	1	0	0	4	5	0	2	0	1
その他	2	3	3	4	5	4	3	3	3

第2-5表 農業近代化資金：H20経営部門別平均借入額（万円）と借入額割合

資金使途別	個人経営						法人経営						全体	
	無利子化		省エネ		有利子		無利子化		無利子化		省エネ		有利子	
平均借入額	平均	割合	平均	割合	平均	割合	平均	割合	平均	割合	平均	割合	平均	割合
全体	815	100	766	100	249	100	1218	100	1437	100	429	100	670	100
稲作	738	21.1	726	27.1	307	20.0	926	26.1	1157	34.0	306	24.9	661	22.4

畑作	720	5.8	778	6.6	264	2.4	1016	5.5	0	0.0	320	3.5	692	5.2
露地野菜	773	8.0	736	11.2	247	12.5	1129	6.3	3440	9.2	276	8.2	569	8.3
施設野菜	858	19.1	873	22.2	211	23.7	1733	7.4	1970	10.5	422	3.4	580	17.0
露地果樹	730	3.1	737	3.8	199	5.6	715	0.9	0	0.0	275	2.2	445	2.9
施設花き	804	6.6	528	1.8	232	6.8	895	4.3	0	0.0	344	3.7	598	5.9
工芸作物	806	5.9	751	2.5	273	10.5	1388	3.1	0	0.0	283	3.8	572	5.7
酪農	859	8.7	744	13.9	269	6.4	1162	8.7	1731	23.2	349	2.8	755	8.6
肉用牛肥育	1007	7.8	524	2.7	411	2.8	1810	9.8	1487	4.0	213	1.2	1054	7.4
肉用牛繁殖	836	7.5	1223	4.1	222	3.4	1742	1.7	0	0.0	0	0.0	715	5.5
養豚	1120	1.4	600	1.0	331	0.5	1921	8.2	0	0.0	676	11.0	1354	2.8
採卵鶏	882	0.3	0	0.0	130	0.1	1795	1.7	0	0.0	1451	11.8	1197	0.7
ブロイラー	1077	0.5	0	0.0	214	0.2	3160	2.5	0	0.0	159	0.4	1413	0.9
きのこ	1042	1.2	0	0.0	297	0.6	1713	5.7	3600	9.6	0	0.0	1266	2.2
その他	786	2.2	902	3.1	238	3.1	1059	3.4	1300	3.5	1125	9.2	638	2.7

④農業粗収入別動向

農業粗収入が大きくなるほど、投資額が大きくなり、無利子資金の件数割合が高くなる。

個人経営では、有利子資金では農業粗収入 3 千万円未満が 84%と高く、無利子資金でも 67%に達しており、無利子化措置は小規模農家の小型のトラクターやビニールハウスへの投資意欲に応えたと見られる。また、無利子資金では大規模農家も多く、投資拡大に貢献したと見られる。

法人経営は、無利子化資金と省エネ資金ともに 1 億円以上の大規模農家が多くなる。有利子資金は小規模の法人の投資に活用されているが、「5 千万～1 億円未満」も多い。

第 2-6 表 農業近代化資金：H20 農業粗収入別件数割合（無利子化資金／省エネ／有利子）

農業粗収入別 件数割合	個人経営			法人経営			全体		
	無利子化	省エネ	有利子	無利子化	省エネ	有利子	無利子	有利子	全体合計
件数	2214	77	1445	450	20	77	2761	1522	4283
(割合)	59	2	39	82	4	14	64	36	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
1 千万円未満	19	19	29	5	0	12	17	28	21
1 千～2 千万未満	28	27	36	9	15	17	25	35	28
2 千～3 千万未満	20	23	19	12	20	10	19	19	19
3 千～4 千万未満	12	8	8	9	10	10	11	8	10
4 千～5 千万未満	7	10	4	11	10	9	7	4	6
5 千万～1 億未満	11	9	3	25	20	29	14	5	10
1 億～2 億円未満	3	3	1	17	15	6	5	1	4
2 億円以上	0	0	0	12	10	6	2	0	2

3 スーパーL資金の投資内容（20年度）

①借入額別動向

件数割合では、全体合計で「500万円超～1千万円以下」38%が最も多く、500万円以下は13%で農業近代化資金（36%）に比べ少ない。

個人経営は「500万円超～1千万円以下」44%と多く、500万円以下は15%であるが、法人経営では「500万円超～1千万円以下」が20%で、大型投資が多くなり1億円超が16%にも達する。

第3-1表 スーパーL資金：H20借入額別件数割合（500万円超／500万円以下）

借入額別 件数割合	個人経営			法人経営			全体		
	500超	500以下	合計	500超	500以下	合計	500超	500以下	合計
件数	2856	497	3353	934	45	979	3790	542	4332
(割合)	85	15	100	95	5	100	87	13	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
500万円以下	0	100	15	0	100	5	0	100	13
500超～1千万円以下	51		44	21		20	44		38
1千超～2千万円以下	28		24	21		20	26		23
2千超～3千万円以下	9		8	13		12	10		9
3千超～4千万円以下	4		4	7		7	5		4
4千超～5千万円以下	3		2	9		9	4		4
5千万超～1億円以下	4		3	13		12	6		5
1億円超	1		1	17		16	5		4

②資金使途別動向

全体合計では、スーパーL資金は農地取得ができるため、件数割合で農地取得が41%と最も多く、建物・施設の取得27%、農機具の取得17%、家畜の購入5%であるが、平均借入額が建物・施設の取得5147万円に対し農地取得1337万円、農機具の取得1245万円であるため、借入額割合では建物・施設の購入が53.2%と半数を占め、農地取得21.1%、農機具の取得は8.0%にとどまる。なお、平均借入額は個人経営と法人経営では4倍の差がある。

個人経営は、件数割合では500万円超で農地取得が49%と最も多く、建物・施設の取得23%、農機具の取得16%であるが、借入額割合では農地取得40.6%で最も多いものの、建物・施設の購入は37.3%と多く、農機具の取得は8.9%にとどまる。500万円以下では、借入額割合で農地取得が36.7%を占めるものの、農機具の取得が22.7%で小型の農業機械が多くなる。

最も多い農地取得は購入できる対象に限られるため、購入する農地の金額で無利子資金と有利子資金に分かれる。原油価格の高騰等農業環境が厳しい中でも規模拡大のための農地取得用の資金需要が高く、また、無利子化措置でコンバイン、トラクターの更新、温室・ハウスの資金需要が高かったと見られる。

法人経営は、500万円超では農地取得の件数割合は16%と個人経営と比較して低くなり、建物・施設の取得が45%と高い。スーパーL資金は農業近代化資金と比べ畜産の割合が高いため、従来から農機具の取得より建物の取得が高い。一方、500万円以下は農地取得の割合は24%と若干高

くなり、また農機具の取得が個人経営同様33%と建物・施設の取得より多くなる。法人は土地の賃借によるところが多く、個人経営より農地取得の割合が低いものの、金額ないしは必要に応じて購入するとみられる。「その他」の多くは飼料代であるが16%と高い。

平均借入額については、500万円超では建物・施設の購入、家畜の購入が大きく、農機具の取得、農地取得は比較すれば小さいため、借入額割合では建物・施設の購入66.4%を占め、家畜の購入9.2%、農機具の取得6.9%、農地取得は6.0%にとどまる。500万円以下では農機具の取得28.7%が最も多く、農地取得も25.6%を占める。

第3-2表 スーパーL資金：H20資金用途別件数割合（500万円超／500万円以下）

資金用途別 件数割合	個人経営			法人経営			全体		
	500超	500以下	合計	500超	500以下	合計	500超	500以下	合計
件数	2854	497	3351	931	45	976	3785	542	4327
(割合)	85	15	100	95	5	100	87	13	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
土地改良	0	1	0	0	2	1	0	1	0
建物・施設の取得	23	11	21	45	16	44	29	12	27
農機具の取得	16	22	17	14	33	15	16	23	17
運搬用機具の取得	0	1	0	0	0	0	0	1	0
果樹等の植栽育成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	4	2	4	8	2	7	5	2	5
長期運転資金	2	5	2	4	7	4	2	6	3
農地取得	49	40	48	16	24	16	41	39	41
その他	5	17	7	12	16	12	7	17	8

第3-3表 スーパーL資金：H20資金用途別平均借入額（万円）と借入額割合

経営部門別 平均借入額 借入額割合	個人経営				法人経営				全体	
	500超		500以下		500超		500以下		500超	
	平均額	割合	平均額	割合	平均額	割合	平均額	割合	平均額	割合
全体	1651	100	318	100	6663	100	360	100	2565	100
土地改良	1017	0.2	350	1.6	3260	0.2	360	2.2	1190	0.2
建物・施設取得	2658	37.3	310	11.2	9772	66.4	388	16.8	5147	53.2
農機具の取得	911	8.9	332	22.7	3285	6.9	310	28.7	1245	8.0
運搬用機具取得	709	0.1	290	0.7	1530	0.0	0	0.0	706	0.1
果樹等植栽育成	800	0.0	0	0.0	880	0.0	0	0.0	840	0.0
家畜の購入	2536	6.8	443	2.5	7975	9.2	400	2.5	4317	8.1
長期運転資金	1579	1.8	362	6.2	4130	2.5	461	8.5	2081	2.3
農地取得	1368	40.6	291	36.7	2536	6.0	378	25.6	1337	21.1
その他	1464	4.2	338	18.4	4569	8.4	364	15.7	2193	6.8

③経営部門別動向

全体合計では、件数割合は、農地取得、建物・施設の取得、農機具の取得が多いことから、稲作 28%、酪農 15%、露地野菜 11%、畑作 8%で資金需要が大きい。しかし、平均借入額は畜産と稲作に大きな差があるため、借入額割合では酪農 16.0%、稲作 14.1%、養豚 10.7%と畜産が大きく、また、きのこも 5.5%と多い。

個人経営では、件数では農地取得、建物・施設の取得が多い稲作、酪農が多いが、平均借入額は畜産が大きいため、500万円超の借入額割合では稲作 25.1%、酪農 23.9%、肉用牛肥育 9.5%である。

法人経営の 500万円超では、平均借入額が「きのこ」15215万円、採卵鶏 13427万円、ブロイラー11489万円とかなり大きくなり、稲作が 2122万円と小さいため、借入額割合では養豚 16.5%、肉用牛肥育 11.6%、採卵鶏 10.1%と畜産が占め、きのこも 9.5%と高く、稲作は 5.5%にとどまる。20年度は養豚の建物・施設の取得が回復した。

第3-4表 スーパーL資金：H20 経営部門別件数割合（500万円超／500万円以下）

経営部門別 件数割合	個人経営			法人経営			全体		
	500超	500以下	合計	500超	500以下	合計	500超	500以下	合計
件数	2813	484	3297	848	44	892	3661	528	4189
(割合)	85	15	100	95	5	100	87	13	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
稲作	32	25	31	19	30	20	29	26	28
畑作	10	5	10	4	9	4	9	5	8
露地野菜	12	12	12	6	16	7	11	12	11
施設野菜	5	6	5	4	5	4	5	6	5
露地果樹	3	8	4	2	7	2	3	8	4
施設花き	5	6	5	4	2	4	5	5	5
工芸作物	4	6	4	3	2	3	3	6	4
酪農	15	23	16	12	7	11	14	22	15
肉用牛肥育	6	1	5	8	5	8	6	2	6
肉用牛繁殖	3	3	3	1	0	1	3	3	3
養豚	2	1	2	16	9	15	5	2	5
採卵鶏	0	0	0	6	2	5	2	0	1
ブロイラー	0	1	0	3	0	3	1	1	1
きのこ	1	1	1	5	0	4	1	1	1
その他	2	2	2	8	7	8	3	3	3

第3-5表 スーパーL資金：H20経営部門別平均借入額（万円）と借入額割合

経営部門別 平均借入額 借入額割合	個人経営				法人経営				全体	
	500超		500以下		500超		500以下			
	平均額	割合	平均額	割合	平均額	割合	平均額	割合	平均額	割合
全体	1651	100	318	100	6663	100	360	100	2565	100
稲作	1332	25.1	314	24.3	2122	5.5	289	23.1	1323	14.1
畑作	1306	8.1	340	4.7	4862	2.7	386	9.5	1588	5.0
露地野菜	1154	8.2	315	11.4	3228	2.7	439	19.0	1280	5.2
施設野菜	1476	4.4	286	5.6	3331	2.0	300	3.7	1616	3.0
露地果樹	1146	2.3	293	7.4	1870	0.5	444	8.2	980	1.3
施設花き	1574	4.5	312	5.5	2105	1.1	350	2.2	1477	2.6
工芸作物	1431	3.2	293	5.4	5785	2.2	495	3.1	1878	2.7
酪農	2612	23.9	344	24.2	6272	9.9	283	7.1	2768	16.0
肉用牛肥育	2666	9.5	405	1.5	10429	11.6	250	3.1	4777	10.5
肉用牛繁殖	1647	3.0	293	2.6	2775	0.5	0	0.0	1588	1.6
養豚	2974	3.3	370	1.2	7715	16.5	368	9.1	6103	10.7
採卵鶏	2074	0.5	0	0.0	13427	10.1	300	1.8	11088	5.9
ブロイラー	1944	0.5	373	0.7	11489	4.2	0	0.0	7750	2.6
きのこ	1286	0.4	350	0.9	15215	9.5	0	0.0	10587	5.5
その他	1479	1.5	276	2.1	6267	7.0	392	7.3	3866	4.6

④農業粗収入別動向

農業近代化資金同様、個人経営、法人経営ともに大規模になるほど無利子資金の対象となる500万円超の割合が高くなり、投資額が大きくなっていることを示している。法人の農業粗収入2億円以上層でも借入金500万円以下が14%もあり、各層で小口需要があることを示している。

第3-6表 スーパーL資金：H20農業粗収入別件数割合（500万円超／500万円以下）

農業粗収入別 件数割合	個人経営			法人経営			全体		
	500超	500以下	合計	500超	500以下	合計	500超	500以下	合計
件数	2814	488	3302	837	44	881	3651	532	4183
(割合)	85	15	100	95	5	100	87	13	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
1千万円未満	12	24	14	4	9	4	10	22	12
1千～2千万円未満	22	31	23	4	2	4	18	29	19
2千～3千万円未満	21	16	21	6	18	7	18	16	18
3千～4千万円未満	15	13	15	6	25	7	13	14	13
4千～5千万円未満	9	7	9	5	2	5	8	6	8
5千～1億万円未満	14	8	13	19	23	19	15	9	14
1億～2億万円未満	5	1	4	21	7	20	9	2	8
2億万円以上	2	0	2	35	14	34	9	2	8

4 経営部門別資金使途（20年度）

（1）農業近代化資金

ア 個人経営

農業近代化資金は耕種の割合が高く、稲作の農業機械の購入と施設野菜の建物・施設の取得が大きな件数割合を占めている。

経営部門で見ると、稲作、施設野菜、露地野菜が大きく、投資内容では農機具の取得、建物・施設の取得、家畜の購入が大きい。

農機具の取得は稲作、露地野菜、施設野菜、工芸作物で大きく、建物・施設の取得は施設野菜（ほとんどが温室）が依然大きな割合を占めているが、施設花きは建物・施設の取得（温室）が伸び悩み、酪農も畜舎の投資が伸び悩み、件数割合では低下した。家畜の購入では肉用牛肥育と酪農が大きい。原油価格と飼料価格の高騰で大型の固定施設への投資より身近な投資を優先されたと推定される。

第4-1表 農業近代化資金（個人経営）：H20 経営部門別資金使途（件数割合）

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	ブロイラー	きのこ	その他	全体
土地改良	0.1	0.0	0.1	0.1	0.2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.7
建物・施設	2.5	0.5	2.2	14.0	2.1	5.5	1.5	1.9	0.5	1.5	0.5	0.1	0.2	0.5	1.5	35.1
農機具等	17.9	4.3	7.2	5.0	1.8	0.6	5.4	2.7	0.9	1.9	0.1	0.1	0.1	0.2	0.8	49.0
運搬用機具	0.3	0.0	0.6	0.7	0.6	0.2	0.3	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	3.1
果樹等植栽	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家畜の購入	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	2.4	2.8	1.8	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3
長期運転資金	0.1	0.0	0.0	1.9	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	2.8
農地取得	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.2	0.4	0.1	0.3	0.1	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	1.9
合計	20.8	4.9	10.2	22.2	4.9	6.9	7.4	7.5	4.5	5.8	0.8	0.2	0.3	0.8	2.7	100

イ 法人経営

法人経営では稲作の農機具の取得がもっとも大きな件数割合を占めている。

経営部門で見ると、稲作は大きく増加し37.0%で、酪農は大きく低下し9.3%である。

投資内容では農機具の取得が大きく増加し48.5%、建物・施設の取得は減少し35.8%であった。酪農、養豚の建物・施設の取得（畜舎）が伸びなやみ、割合が低下した。

第4-2表 農業近代化資金（法人経営）：H20 経営部門別資金使途（件数割合）

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	ブロイラー	きのこ	その他	全体
土地改良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建物・施設	6.6	1.5	2.5	4.2	0.8	4.6	0.5	3.0	1.9	0.2	4.1	0.7	0.8	2.9	1.5	35.8
農機具等	29.1	4.6	4.4	0.7	0.7	0.2	2.7	2.0	1.0	0.3	0.0	0.3	0.2	0.5	1.9	48.5
運搬用機具	0.3	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	1.5
果樹等植栽	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家畜の購入	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	3.0	0.3	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	7.8
長期運転資金	0.3	0.0	0.3	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.2	1.7
農地取得	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.5	0.0	0.5	0.2	0.3	0.8	0.0	0.3	0.3	0.2	1.0	0.2	0.0	0.2	0.2	4.7
合計	37.0	6.4	7.9	5.4	1.9	5.7	3.2	9.3	6.3	1.0	5.6	1.5	1.0	3.7	4.1	100

(2) スーパーL資金

ア 個人経営

スーパーL資金の個人は稲作、畑作、露地野菜、酪農の農地取得と稲作の農業機械の取得が大きな件数割合を占めている。

経営部門では稲作、酪農、露地野菜が大きく、投資内容では農機具の取得が大きく増加したものの農地取得は依然 48.0%と大きく、建物・施設の取得も減少したが 21.2%と大きい。

稲作は 30.7%を占めるが農地取得で減少し、農機具の取得で増加した。畑作（北海道）は農地取得で増加し、露地野菜は農機具の取得で増加した。施設花きは農業近代化資金とは違い建物・施設の取得（ほとんどが温室）が伸びた。酪農は主要な農地取得、建物・施設の取得が伸び悩んでいるが 16.6%を占める。

第4-3表 スーパーL資金（個人経営）：H20 経営部門別資金使途（件数割合）

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	ブロイラー	きのこ	その他	全体
土地改良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
建物・施設	2.3	0.4	2.1	2.6	1.2	3.0	0.4	5.3	1.0	0.9	0.8	0.1	0.2	0.2	0.7	21.2
農機具等	8.4	1.6	2.4	0.4	0.4	0.2	0.8	1.9	0.2	0.5	0.1	0.0	0.1	0.1	0.2	17.2
運搬用機具	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
果樹等植栽	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家畜の購入	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.2	0.5	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	4.1
長期運転資金	0.1	0.0	0.2	0.3	0.2	0.3	0.1	0.5	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	2.4
農地取得	19.4	7.4	6.8	1.3	1.6	0.7	2.5	5.9	0.7	0.7	0.2	0.0	0.0	0.1	0.7	48.0
その他	0.4	0.0	0.3	0.5	0.4	0.6	0.1	2.1	0.7	0.3	0.4	0.1	0.1	0.1	0.3	6.3
合計	30.7	9.5	11.9	5.1	4.1	4.9	4.0	16.6	5.3	3.1	1.7	0.3	0.4	0.6	1.8	100

イ 法人経営

法人経営では養豚、酪農の建物・施設の取得、稲作の農機具の取得と農地取得が大きいものの、農業近代化資金とは異なり、特に大きな割合を占めるものがない。畜産の割合が大きいのが特徴である。

経営部門では、稲作、養豚、酪農が大きく、投資内容では個人経営とは異なり農地取得が少なく、建物・施設の取得が半数を占める。農機具の取得も増加した。

稲作は農機具の取得、農地取得が大きく、畑作、露地野菜は農地取得が大きい。養豚は建物・施設の取得が大きい。一方、施設野菜、酪農は個人経営同様、建物・施設の取得（畜舎）の投資が大きく伸び悩んだ。

第4-4表 スーパーL資金（法人経営）：H20 経営部門別資金使途（件数割合）

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	ブロイラー	きのこ	その他	全体
土地改良	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.2	0.6
建物・施設	3.8	1.1	2.0	2.8	0.6	2.7	0.7	5.1	2.1	0.4	8.5	2.6	1.5	3.3	4.6	41.8
農機具等	8.3	0.6	0.7	0.3	0.4	0.1	0.9	1.3	0.2	0.1	0.4	0.3	0.2	0.4	0.8	15.3
運搬用機具	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
果樹等植栽	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
家畜の購入	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	3.8	0.3	0.6	0.4	0.1	0.0	0.2	7.5
長期運転資金	0.3	0.2	0.8	0.2	0.3	0.2	0.0	0.2	0.2	0.0	0.6	0.2	0.1	0.2	0.6	4.3
農地取得	6.6	2.1	2.5	0.4	0.3	0.2	1.0	1.7	0.4	0.3	0.6	0.2	0.0	0.0	0.6	17.1
その他	0.3	0.2	0.8	0.6	0.2	0.6	0.2	0.9	1.1	0.0	4.5	1.5	0.7	0.4	1.1	13.1
合計	19.6	4.4	6.7	4.4	2.0	3.8	2.8	11.3	8.0	1.2	15.3	5.4	2.6	4.4	8.1	100

(参考) 平成 20 年度建物・施設の取得及び農機具の取得の件数内訳

(1) 農業近代化資金

①建物・施設の取得の経営部門別件数内訳

ア 個人経営

第 5-1 表 農業近代化資金 (個人経営) : H20 建物・施設取得の件数内訳 : 全数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	ブロイラー	きのこ	その他	全体
農舎、倉庫	43	10	33	27	23	5	11	2	3	3	1	0	2	1	4	168
畜舎	1	1	2	1	0	0	2	42	14	49	13	1	4	0	0	130
温室、ハウス	16	1	27	474	25	193	6	1	1	0	0	1	1	4	45	795
果樹棚	1	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7
加工・作業所	16	1	9	13	8	4	13	1	0	1	0	0	0	1	4	71
貯蔵乾燥施設	12	4	9	8	4	2	10	8	1	2	1	1	0	0	0	62
糞尿処理施設	0	1	0	0	0	0	2	16	1	2	5	1	0	0	1	29
その他	4	1	1	3	14	4	13	1	0	0	0	0	1	14	2	58
合計	93	19	82	526	78	208	57	71	20	57	20	4	8	20	57	1320

イ 法人経営

第 5-2 表 農業近代化資金 (法人経営) : H20 建物・施設取得の件数内訳 : 全数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	ブロイラー	きのこ	その他	全体
農舎、倉庫	12	4	3	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	1	23
畜舎	1	0	1	0	0	0	0	9	6	1	16	2	5	0	0	41
温室、ハウス	6	2	5	23	1	24	0	0	0	0	0	0	0	1	7	69
果樹棚	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
加工・作業所	5	1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	11
貯蔵乾燥施設	12	1	5	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	1	23
糞尿処理施設	1	0	0	0	0	0	0	7	2	0	7	2	0	0	0	19
その他	2	1	0	1	0	1	2	0	0	0	1	0	0	16	0	24
合計	39	9	15	25	5	27	3	18	11	1	24	4	5	17	9	212

②農機具の取得の経営部門別件数内訳

ア 個人経営

第5-3表 農業近代化資金（個人経営）：H20 農機具取得の件数内訳：全数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	ブロイラー	きのこ	その他	全体
トラクター	241	89	162	104	10	14	50	43	19	31	1	0	1	1	16	782
田植機	68	3	7	9	1	3	2	2	0	1	1	0	0	1	0	98
収穫用農機具	29	45	42	21	45	2	88	36	6	26	1	0	0	0	6	347
コンバイン	274	22	37	29	6	4	9	5	8	9	1	2	1	1	6	414
乾燥機	33	0	3	4	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	46
出荷用選別機	15	2	14	15	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	2	52
給餌機	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	0	0	2	0	0	8
搾乳機	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
製茶機	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	1	0	36
その他	12	2	6	8	4	1	16	5	1	3	0	1	0	1	0	60
合計	672	163	271	190	67	24	204	101	35	71	4	3	4	6	30	1845

イ 法人経営

第5-4表 農業近代化資金（法人経営）：H20 農機具取得の件数内訳：全数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	ブロイラー	きのこ	その他	全体
トラクター	46	8	13	0	1	0	2	2	2	0	0	0	0	0	4	78
田植機	12	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
収穫用農機具	12	4	8	0	2	1	7	6	2	2	0	0	0	0	3	47
コンバイン	81	13	2	1	0	0	0	1	2	0	0	2	0	0	3	105
乾燥機	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
出荷用選別機	6	0	0	2	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	12
給餌機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
搾乳機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
製茶機	0	0	1	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	7
その他	7	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	14
合計	172	27	26	4	4	1	16	12	6	2	0	2	1	3	11	287

(2) スーパーL資金

①建物・施設の取得の経営部門別件数内訳

ア 個人経営

第6-1表 スーパーL資金（個人経営）：H20建物・施設取得の件数内訳：全数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	ブロイラー	きのこ	その他	全体
農舎、倉庫	28	5	15	4	12	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	69
畜舎	2	5	2	1	1	0	0	153	28	29	22	3	5	0	3	254
温室、ハウス	10	1	39	67	19	93	0	2	0	1	1	0	1	5	10	249
果樹棚	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
加工・作業所	21	0	8	2	3	4	8	0	0	0	1	0	0	0	6	53
貯蔵乾燥施設	9	2	5	2	1	0	1	4	0	1	0	0	0	0	0	25
糞尿処理施設	0	0	0	0	0	0	0	6	4	0	1	0	0	0	0	11
その他	5	0	2	9	3	2	2	8	1	0	3	0	0	3	1	39
合計	75	13	71	85	40	99	13	174	33	31	28	3	6	8	22	701

イ 法人経営

第6-2表 スーパーL資金（法人経営）：H20建物・施設取得の件数内訳：全数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	ブロイラー	きのこ	その他	全体
農舎、倉庫	10	2	1	1	2	0	1	2	0	0	0	1	0	0	5	25
畜舎	3	0	0	3	0	2	0	33	16	3	54	20	13	2	12	161
温室、ハウス	7	1	9	18	2	21	0	1	0	0	0	0	0	15	9	83
果樹棚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
加工・作業所	7	2	6	2	0	0	4	2	1	0	1	1	0	2	6	34
貯蔵乾燥施設	7	3	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	2	16
糞尿処理施設	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	17	0	0	0	0	22
その他	0	2	1	1	1	1	1	2	0	0	4	1	0	10	6	30
合計	34	10	18	25	5	24	6	45	19	4	76	23	13	29	41	372

②農機具の取得の経営部門別件数内訳

ア 個人経営

第6-3表 スーパーL資金（個人経営）：H20 農機具取得の件数内訳：全数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	ブロイラー	きのこ	その他	全体
トラクター	94	32	46	8	2	2	4	28	3	10	0	0	0	1	1	231
田植機	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	19
収穫用農機具	8	9	6	2	2	1	7	8	0	0	0	0	1	0	1	45
コンバイン	131	10	17	3	7	1	5	5	3	4	2	0	2	1	2	193
乾燥機	14	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	17
出荷用選別機	6	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	10
給餌機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
搾乳機	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	9
製茶機	0	0	1	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	9
その他	7	1	7	1	2	2	2	12	0	1	1	0	0	1	0	37
合計	278	54	78	14	13	7	27	63	6	15	3	0	3	4	5	570

イ 法人経営

第6-4表 スーパーL資金（法人経営）：H20 農機具取得の件数内訳：全数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	ブロイラー	きのこ	その他	全体
トラクター	16	2	5	1	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	1	29
田植機	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
収穫用農機具	1	2	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	8
コンバイン	31	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	2	37
乾燥機	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9
出荷用選別機	5	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	9
給餌機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
搾乳機	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5
製茶機	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6
その他	6	0	1	2	1	1	0	2	0	0	2	2	2	3	2	24
合計	74	5	6	3	4	1	8	12	2	1	4	3	2	4	7	136

(資料) 本分析における資金使途の例示 (農業近代化資金、スーパーL資金共通)

	資金使途	整備内容	主な整備、施設、機械
1	土地改良		農地造成、耕地整備、用排水施設整備、暗渠（布設工事）、灌水施設（ハウス外）
2	建物・施設の取得	1. 農舎、倉庫	機械収納庫
		2. 畜舎	畜舎内施設整備も含む（バーンクリーナー）
		3. 温室、ハウス	温室用内整備も含む（光合成促進機、育成管理施設、ボイラー）
		4. 果樹棚	
		5. 加工・作業所	製茶建物、アイス工房、精米プラント
		6. 貯蔵乾燥施設	ライスセンター、コロラックシステム（タバコ乾燥）
		7. 糞尿処理施設	堆肥舎、堆肥化装置
		8. その他	きのこ栽培施設、防霜扇、災害被害修理、柵、売店、スプリンクラー、牛群管理システム
3	農機具の取得	1. トラクター	
		2. 田植機	
		3. 収穫用農機具	防除機、掘取機、刈取機、乗用管理機、摘茶機、ハーベスター、スプリンクラー、ホイロローダー
		4. コンバイン	
		5. 乾燥機	
		6. 選別機	出荷用選別機、包装機、洗浄機
		7. 給餌機	
		8. 搾乳機	
		9. 製茶機	
		10. その他	農作業以外の機械（籾すり機、精米機、ボイラー、コンベア、ヘリコプター）
4	運搬用器具の取得		トラック、ワゴン
5	果樹植栽・育成		
6	家畜の購入		
7	長期運転資金		出資金、リース料、権利金、研修費用、開発費
8	農地取得		
9	その他	農業用資材の取得	コンテナ、ほだ木、菌床、防風ネット、球根・苗、育成費、飼料代、短期的なもの、井戸